

<理念>大塚グループは、“Otsuka-people creating new products for better health worldwide”(世界の人々の健康に貢献する革新的な製品を創造する)という企業理念のもと革新的で創造性に富んだ製品・サービスを通じて、世界の人々のより豊かで健康な暮らしに貢献し、お客さまや社会から信頼される企業を目指します。

取り組み方針	主な取り組み実績	参考資料
<h3>1. 経営トップのコミットメント</h3>		
<p>私たちは「患者さんや生活者の皆さまが真に求めていることは何か」という本質を考え、日々事業活動を行っています。「実証と創造性」という大塚の企業文化を受け継ぎ、治療から健康維持・増進までを担うトータルヘルスケアカンパニーとして、世界の人々の豊かで健康な暮らしに貢献する“なくてはならない企業”を目指して、これからも挑戦を続けてまいります。</p> <p><今後更に力をいれること> 「独自のトータルヘルスケア企業」としてこれからも持続的な進化を続けサステナブルな社会に貢献します。</p> <p>統合報告書2021はこちら</p>  <p>環境報告書2021はこちら</p> 	<p>大塚ホールディングスの取締役を委員長とした「サステナビリティ推進委員会」で取り組みを共有・議論(2021年12月16日開催)</p> <p><各活動の主な取り組みと成果></p> <p>1. 人権: 大塚グループ 人権方針施行に伴う全社員対象の研修を実施 重点課題を示した「大塚グループ人権に関する重点課題」には、患者さん、生活者の皆さまへ消費者志向経営の推進を明記。グローバルを含む全社員を対象に毎年人権のeラーニングを実施。(2021年度は、ビジネスが人権に与える影響と「大塚グループ人権方針」の内容について解説。)</p> <p>2. 環境:</p> <p>① TCFD提言への賛同 「気候関連財務情報開示タスクフォース(Task Force on Climate-related Financial Disclosures:TCFD)」の提言への賛同を2021年10月に表明し、気候変動が事業にもたらすリスクや機会についての分析と対応を推進。</p> <p>② 2050年環境ビジョン「ネットゼロ」表明 事業活動におけるすべての負荷をゼロにするという2050年環境ビジョン「ネットゼロ」を2021年10月に新たに掲げ、具体的な中期目標を設定。</p> <p>③ 「RE100」イニシアチブへの賛同 事業活動で使用する電力を100%再生可能エネルギーにすることを目指す国際的なイニシアチブ「RE100」に2022年4月に加盟。</p> <p>3. 調達: サステナブル調達の推進(継続) サステナブル調達SAQ(アンケート)を2021年までに137社に実施し、説明会には126社が参加。サプライヤー7社に対しオンライン面談を開催。また、2022年7月に調達ガイドラインを改定。さらに、従来のサステナブル調達活動を拡大し、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野に加え、自然災害や地政学リスクへの対応として「安定供給」もテーマに含めた取り組みをグループで開始。</p>	<p>>大塚ホールディングスサステナビリティサイト>私たちが取り組むサステナビリティ>推進体制</p> <p>>大塚ホールディングスサステナビリティサイト>社会>人権への取り組み</p> <p>>環境に配慮した製品の展開の強化</p> <p>リサイクルPET樹脂を30%利用した「ポカリスエット」の販売を2022年3月に開始 サステナブルな社会の実現に向けた容器包装リサイクルPET樹脂利用 ポカリスエットを今春より販売開始 ニュースリリース 大塚製薬 (otsuka.co.jp)</p> <p>循環型ショッピングプラットフォーム「Loop」を利用し、「ポカリスエット リターナブル瓶250ml」を2022年7月より一部店舗で販売開始。 ポカリスエットリターナブル瓶 250ml 循環型ショッピングプラットフォーム「Loop」で販売開始 ニュースリリース 大塚製薬 (otsuka.co.jp)</p> <p>>調達 品質 社会 サステナビリティ 大塚ホールディングス株式会社 (otsuka.com)</p>

2. コーポレートガバナンス

透明性・公平性を保ちつつ、迅速な意思決定を行うとともに、顧客、取引先、従業員、地域社会、株主等すべてのステークホルダーとの対話により信頼に応え社会的責任を果たしていくことを基本方針としております。

<今後更に力をいれること>

大塚グループは、持続的かつ中長期的な企業価値の向上を実現するため、透明性・公平性を保ちつつ、迅速な意思決定を行うとともに、顧客、取引先、従業員、地域社会、株主等すべてのステークホルダーとの対話を推進し、社会的責任を果たしてまいります。



OTSUKAまんがヘルシー文庫

> [OTSUKAまんがヘルシー文庫 | 大塚ホールディングス株式会社](#)



大塚ホールディングスの複数の取締役は事業会社の役員を兼任し、グループ会社間の速やかな意思伝達と緊密な連携のもと、活動を推進しています。

1. 健康なくらしの実現のために取り組み続けている活動

①47都道府県および市区町村との連携

生活者の皆さまの健康の維持・増進を目指して、全国47都道府県市区町村の単位まで連携協定締結を拡大。日々の健康維持増進や疾病管理、さらには災害時の健康支援など地域ごとに異なる課題に対して幅広く専門的な情報等を提供し、地域の方々と共に健康づくりを推進。

②「熱中症対策」など水分・電解質補給の重要性を伝える活動

大塚製薬では、自社ウェブサイトや気象予報士と共同で制作した「熱中症予防情報サイト」からの情報提供などを通じ、熱中症対策・予防啓発のさらなる充実を図るほか、大塚製薬工場では深刻な脱水症状に陥る手前の予防対策を啓発する「教えて！『かくれ脱水』委員会」の運営協力を実施。

③女性の健康に関する啓発活動

外部企業等に赴き「女性の健康」に関するセミナーを開催するほか、女性の健康をサポートする医療関係者向けのプログラムを提供。(プログラムの登録者数累計約50,000人、2021年時点の登録者数約21,000人)

④OTSUKAまんがヘルシー文庫

子どもたちに基本的な健康の知識をわかりやすく伝えるため、体の仕組みや栄養の情報などを「まんが」で紹介。毎年テーマを変えて1巻ずつ発行し、全国の小学校や特別支援学校、海外日本人学校、公立図書館など約23,000冊を寄贈。2022年2月に9巻「100歳まで元気に」を発刊。

2. 従業員の健康に向けた取り組み

①社員の健康へのサポート

大塚製薬健康保健組合では、月経関連の症状や疾病およびPMS(月経前症候群)、更年期障害等の女性の健康についての社員の相談窓口として、2022年より婦人科産業医を設置。また、グループ社員とその家族に向け、様々なテーマで健康セミナーを開催。(2021年は「女性の健康を考える」「がん」をテーマにオンラインで実施し、1,300人が参加。)さらに、社員が病気やケガで長期間働けなくなってしまう場合に備え、所得の一部を補償する長期収入サポート制度(GLTD: 団体長期障害所得補償)を導入。希望する社員には、禁煙サポートや子宮頸がんのセルフチェックキットを無償で提供するなどサポートを実施。

②がんと就労へのサポート

大塚製薬の社内制度および啓発活動が外部機関からも評価され「がんアライアワード」を2019年から3年連続で最上位の「ゴールド」賞を受賞。

> [健康と病気 | 大塚製薬 \(otsuka.co.jp\)](#)

> [猛暑到来 熱中症の危険からあなたを守る「熱中症予防情報サイト」公開中 | NPO法人 気象キャスターネットワーク Weather Caster Network \(WCN\)](#)

> [「教えて！『かくれ脱水』委員会」について | かくれ脱水JOURNAL \(kakuredassui.jp\)](#)

> [女性の健康推進プロジェクト | 大塚製薬 \(otsuka.co.jp\)](#)

> [「更年期」情報サイト 更年期ラボ \(ko-nenkilab.jp\)](#)

> [PMS\(月経前症候群\)ラボ \(otsuka.co.jp\)](#)

> [健康イベント | 保健事業 | 大塚製薬健康保険組合 \(kenpo.gr.jp\)](#)

> [大塚製薬3年連続「ゴールド」受賞がんアライアワード 2021](#)



3. 社員の意識醸成

<p>私たちは多様な人材の活躍を原動力として事業を進めてまいりました。顧客価値、真のニーズ、そして社会課題を把握し、新しいカテゴリーを創造し続けるために、あらゆる機会を利用しながら社員の意識醸成に努めます。</p> <p><今後更に力をいれること> 企業理念に則った消費者志向経営の推進を進め、次の100年に向けて国内外に展開を進めます。</p>	<p>1. 「消費者志向経営」の取り組みの社内浸透</p> <p>サステナビリティハンドブックの発行(2022年3月) 大塚グループの社員一人ひとりがサステナビリティについて理解を深め、自分の業務がどのようにサステナビリティと結びついているかを考えるきっかけになることを目的に、大塚ホールディングスで初のサステナビリティハンドブックを発行。グループ各社で、社内研修や社外への説明資料として活用。</p>	<p>>OTSUKA GROUP SUSTAINABILITY ハンドブック</p> 
	<p>2. 未来のヘルスケアを考える社員参加プログラムの実施</p> <p>2021年9月に創業100周年を迎えたことを機に、今後も持続可能な社会の実現に貢献するために、未来のヘルスケアを考える社員参加プログラムを1年をかけて実施したほか、創業の地徳島に、大塚の今後を担う人材育成の場として新たに社員研修施設を開設。</p>	<p>> 大塚グループのあゆみ > 100年企業として</p> 

4. お客様への情報提供の充実とお客様の声を活かす仕組みづくり

<p>長年にわたる「健康」に関する研究、開発、事業活動において得た知見やノウハウを活かし、健康への気づきの促進や理解向上を目的として、セミナー、工場見学、ホームページなどを通じた相互コミュニケーション活動を行います。お問合せやご相談、ご意見に対応する適切な窓口体制を整え、お客さまから寄せられた声を製品の開発・改善に活かしてまいります。</p>	<p>1. 情報提供の充実と仕組み作り</p> <p>大塚グループ各社では患者さん、医療従事者、お客さまに対する専門の窓口を設置し、担当社員には適切な研修を実施。お客さまとのコミュニケーションの深化を図るとともに適切な情報をお伝えし、製品・サービスへのご意見やご提案は経営層や関連部署で共有し、製品・サービスの開発・改善のために活用。</p>	<p>> 大塚HDサステナビリティサイト「顧客対応」</p>
<p><今後更に力をいれること> 多様化する消費者の健康ニーズに応えるために、消費者から得られた知見や情報を事業活動に活かすため、ステークホルダーとの対話を推進してまいります。</p>	<p>2. 製品の開発、改善・改良と相互コミュニケーション</p> <p>①開けやすい包装箱への改良 お客さまの声を参考に「カロリーメイト ブロック」の開封部分のミシン目を数ミリ単位で調整し、より開けやすい包装箱に改良。</p> <p>②お客さまとのコミュニケーションから生まれた包装 小売店からのご要望をもとに、「オロナミンC」の外装ケースを開封しやすい包装に改良。店頭での開封作業が軽減したほか、ゴミの減量にも繋がり、2022日本パッケージコンテストでアクセシブルデザイン賞を受賞。</p> <p>②環境に配慮した包装材の変更 大塚製薬の通信販売部門では、お客さまの声をもとに緩衝材の素材をプラスチックから紙へ変更したことで、年間約270kgのプラスチックの削減達成。</p> <p>③食の多様化に配慮した製品の発売 具材に国産野菜や豆を使い、一般的にカレーに使用される小麦粉ルウを使わず動物性原料不使用の「ボンカレーベジ」を発売。</p>	<p>> 大塚製薬「カロリーメイト ブロック」開けやすい包装箱への改良(2022年3月)</p> <p>> 大塚製薬「環境に配慮した包装材の変更」(2021年1月)</p> <p>> 食の多様化に対応した動物性原料不使用『ボンカレーベジ』(2022年2月)</p>

5.社内関連部署との連携による問題発生時の速やかな対応

生命関連企業の責務として、常に患者さんや生活者の皆さまのことを第一に考え、製品の品質安全性を最優先にした事業活動に取り組んでまいります。製品やサービスに問題が発生した場合は、速やかに関連部署の連携のもと情報収集と調査を行い、適切な対応とよりよい製品・サービスの提供に努めます。

<今後更に力を入れていくこと>
創業から続く「お客さま第一」「品質第一」の精神を基本とし、サステナブルな社会の構築のためにバリューチェーンのすべての段階における品質の追求と、環境・社会・人権に配慮した取り組みを推進します。



社員に受け継がれる創業者の社訓

1. 顧客窓口を起点とした有機的な連携

- ①「大塚グループお客様対応担当者連絡会」開催
大塚ホールディングスの経営層参加のもと、国内のグループ各社のお客さま対応担当者が集まる「大塚グループお客様対応担当者連絡会」を年に2回開催。各社の顧客の反応や共感・協働を報告し、ベストプラクティスの共有から企業のあるべき姿などのディスカッション実施。(2021年11月、2022年3月に開催。)
- ②「お客様の声を聴く会」開催
お客さま相談窓口に届いた声は、経営層はじめ関連部門で迅速に共有する仕組みを構築。例えば大塚製薬では、関連部署の役員ならびに担当者へ「お客さまの声」を日報として配信。毎月の品質部門の会議でお客さまの声のレビューを行うほか、年に1度、生産、品質、販売、コンプライアンス部門、お客様相談室などの実務担当者が会して「お客様の声を聴く会」を開催。2021年度は115名が参加し、お客さまから寄せられた製品に関する声や製品改良事例を共有。

> [大塚HDサステナビリティサイト「顧客対応」](#)

> 統合報告書2021
P50: 大塚グループお客様対応担当者連絡会

2. 生産部門と品質部門のグローバルな取り組み

- ①「グローバル生産会議」(生産部門)
生産部門のグローバル全体での技術の向上や情報の共有を目指して30年以上継続しているグループ横断の会議をオンライン開催し、14カ国・地域から経営層を含む138名が参加。また、生産活動における貢献をたたえる目的で、「2021 Production Awards」の授賞式を併せて実施。
- ②「グローバルプロダクトクオリティ会議」(品質部門)
品質部門のグローバルでの課題解決を目指して、大塚製薬の医薬品事業とニュートラシューティカルズ事業関連部門共催で毎年実施し、2021年は日本を含む12カ国・地域から経営陣・品質部門責任者約120名が参加。また、あるべき「品質経営」の取り組みをたたえる「品質功労賞」の授賞式を併せて実施。
- ③「NC Global Quality Policy」の策定(品質部門)
大塚製薬では、創業から続く「お客さま第一」「品質第一」の考えをグローバルの仲間と自分たちの言葉で表現するために、グループ14社からなるグローバル品質チームで「NC Global Quality Policy」を2021年12月に策定。

> [大塚HDサステナビリティサイト「生産」](#)

> 【ご参考】
13年連続受賞 大塚製薬工場
「文部科学大臣表彰 創意工夫功労者賞」
社員から「改善提案」を募る活動を40年継続。2021年は、大塚製薬工場の生産本部より3名が「文部科学大臣表彰 創意工夫功労者賞」を受賞。

> [大塚HDサステナビリティサイト「品質/安全管理」](#)